

共通教育科目〔ダンス〕選択の動機について

— モーズレイ性格検査 (M. P. I) との関係 —

伊達萬里子・林 悦子・古城 和子・朝尾 洋子

(武庫川女子大学文学部教育学科体育専攻)

An Investigation into the Motive of a Selection for Dance in General Education Subject.

— The Relations between the Characteristic by Maudsley Personality Inventory —

Mariko Date, Etsuko Hayashi, Kazuko Furuki, Yōko Asao

Department of Physical Education, Faculty of Letters,

Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan

At this time, We made investigation into reality of students selecting the Dance, also the motive of a select, relation between characteristic by Maudsley Personality Inventory and out look on the Dance.

Standing on the results, We made on attempt to examine the contents of Physical Education Dance in General Education.

The following was clarified by this research on selection of Dance have great influence on Characteristic by Maudsley Personality Inventory.

The results of this reseach was clear from its Neuroticism and Extroversion on the correlation coefficient. The present report shows the results of analysis conducted in the sameway as the investigation referred to in the presvious essay.

緒 言

平成3年6月の大学設置基準の改正により必修科目から一般教育科目が外された事に伴い、本大学では平成4年度よりカリキュラムの変更を実施した。従来的一般教育科目を廃止し、代って全学部学科学年の枠を越えて自由に選択できる〔共通教育科目〕を設置した。この科目の理念として、複雑な現代社会に生きて行く為に必要な人間的資質を高める事を目的とした。その中で体育実技科目は、生涯体育を体系的に学習し、健康に寄与しようとするものである。ところで今回は実技科目の中のダンスを選択した学生の実態とその参加動機及びモーズレイ性格検査とダンス観との関係を調査し、その結果から今後の共通教育科目の領域としてのダンス指導指針について基礎的・具体的資料を得、内容について検討することを目的とする。

研究方法

共通教育科目履修の対象学生である武庫川女子大学・同短期大学部の学生8,407人中、体育実技を希望した者が3,338人で、この内各種ダンスを選択した者は670人であった。更に抽選により受講を許可された302人に質問紙法による調査を平成6年4月に実施した。

その結果、有効回収数 237 部、有効率 78.5% であった。分析方法としては過去の運動経験、健康・体力への意識、運動及びダンスに対する関心度、及びダンスの好嫌と M.P.I.との関係、ダンスの得意不得意と M.P.I.との関係、受講動機、履修後の印象等の 19 項目について統計処理を行い、考察した。又、アンケートの有意差検定には χ^2 検定を用い、ダンス観と M.P.I.の N 尺度、E 尺度との関係を相関値から検定を行った。

結果と考察

1. 中学・高校時代の運動部活動経験の有無

上記を調査した結果、経験有り 161 人 67.9%、無し 76 人 32.1% でそれぞれ 1% 水準での有意差が認められた。選択の動機には運動部活動の経験の有る無しと関連があるといえる。

次に他の共通教育科目(体育実技)全体の中において、受講希望の有無を調べたところ希望有り 78 人 32.9%、希望無し 119 人 50.2%、わからない 40 人 16.9% であり、有意差は認められなかった。

2. 体力と健康に関する意識

(1) 体力と健康に対する自信の有無、及び健康に対する留意度

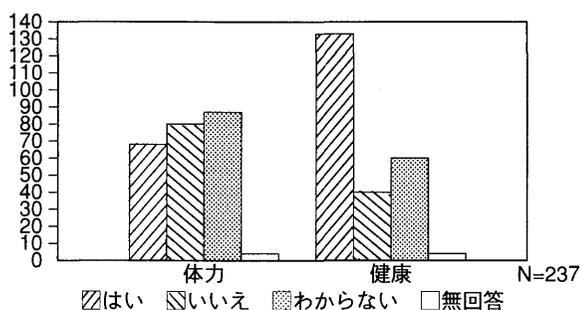


Fig. 1. Confidence about Physical Fitness and Health

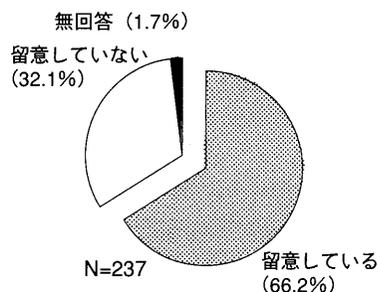


Fig. 2. Keeping Health in mind

Fig. 1 に示したように体力に自信が有ると回答した者は 67 名で 28.3%、自信が無い 81 名で 34.3%、健康に自信が有ると回答した者 134 名で 56.5%、無い 39 名で 16.5% という結果になった。以上から健康には自信があるが体力的に不安という傾向が推察される。健康に対する自信については、留意度と関わりが有るものと思われる。

Fig. 2 から日常生活の健康に対する留意度について、留意していると回答した者 157 名 66.2%、留意していないと回答した者 76 名 32.1% となり、大半の者が後に挙げる具体的な健康保持実践の生活を送っている。

(2) 健康に対する自信の有無及び健康に対する具体的な留意点

Table 1. Confidence and Care about Health

自信の有無	有り n	なし n	不明 n	N (%)
留意している (%)	99 (41.7)	21 (8.9)	37 (15.6)	157 (66.2)
留意していない (%)	35 (14.8)	18 (7.6)	23 (9.7)	76 (32.1)
N (%)	134 (56.5)	39 (16.5)	50 (25.3)	233 (98.3)

無回答4 $\chi^2=6.72$ $p<0.05$ N=233

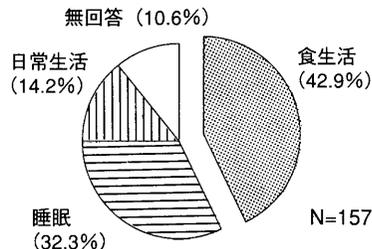


Fig. 3. The Concrete Care about Health

Fig. 2 の結果より留意していると回答した者 157 名を対象に何について留意しているか質問した所、食生活 109 名で 42.9% と半数近く、次いで睡眠 82 名 32.3%、日常生活 36 名 14.2% となった。食生活では栄養のバランスや食事の量の考慮、甘い物の制限、間食を摂取しない等である。他には食事と睡眠と運動のバランス、規則正しい生活のリズムを挙げていた。

Table 1 では、5% 水準で有意な差が認められたところから、日頃より自己の健康管理に配慮していることが、健康に関する自信の裏付けとなっていると言える。

3. 運動とダンスに対する好嫌

Table 2. Likes and Dislikes of Sports

項目	N	%
好き	90	38.0
まあ好きな方	87	36.7
普通	46	19.4
まあ嫌いな方	12	5.1
嫌い	1	0.4
無回答	1	0.4

$\chi^2=618.7$ $p<0.01$

Table 3. Likes and Dislikes of Dance

項目	N	%
好き	99	41.8
まあ好きな方	102	43.1
普通	33	13.9
まあ嫌いな方	1	0.4
嫌い	0	0.0
無回答	2	0.8

$\chi^2=764.2$ $p<0.01$

$\chi^2=14.97$ $p<0.01$

Table 2, Table 3 に示したように1% 水準で有意差が認められた。これに関しては体育実技が選択であるにも関わらずダンスに関心や興味の有る学生が受講したからであろう。更に両者を検定した結果、 $\chi^2=14.97$ で1% 水準の有意差が認められた。

4. ダンスの得意不得意と好嫌との関連

得意である19名8.0%、不得意が62名26.2%、どちらとも言えない137名57.8%となり、 χ^2 検定の結果、得意、不得意の間に1% 水準で有意差が認められた。又 Table 4 よりダンスの好嫌と χ^2 検定の結果、1% 水準で有意差が見られた。『技術レベルは高くないが興味があるので踊りたい』、『楽しみながら受講したい』と言うことではなかろうか。

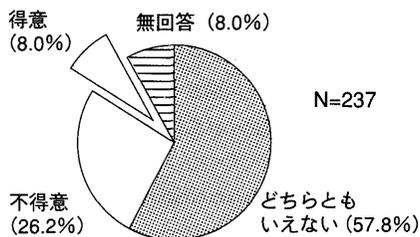


Fig. 4. Strong and Weak points in Dance

Table 4. Relationship between Likes and Dislikes, Strong and Weak points

好嫌	好き n	普通 n	嫌い n	N (%)
得意 (%)	18 (8.2)	1 (0.5)	0 (0.0)	19 (8.7)
普通 (%)	125 (57.3)	12 (5.5)	0 (0.0)	137 (62.8)
不得意 (%)	42 (19.3)	19 (8.7)	1 (0.5)	62 (28.5)
N (%)	185 (84.8)	32 (14.7)	1 (0.5)	218 (100.0)

無回答19 $\chi^2=20.78$ $p<0.01$ N=218

5. ダンス観と M.P.I. の関係

(1) ダンスの好嫌と M.P.I. との相関

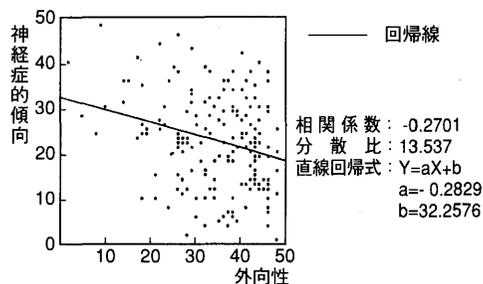


Fig. 5. Correlation at Likes

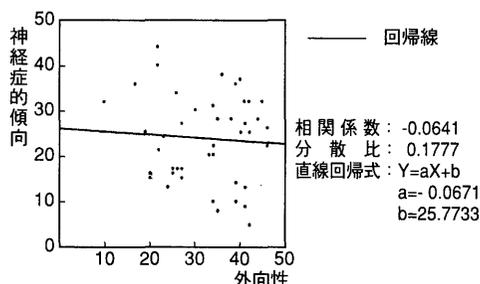


Fig. 6. Correlation at Common Feeling

Table 5. Relationship between Likes and Dislikes of Dance and Characteristic by M. P. I.

	段階点	n	Neuroticism				段階点	n	Extroversion				相関係数 r
			%	得点	M	SD			%	得点	M	SD	
好き (190人)	1	17	8.95	94	5.53	2.15	1	0	—	—	—	-.270*	
	2	58	30.53	833	14.36	2.81	2	12	6.32	199	16.58		3.33
	3	68	35.79	1675	24.63	2.83	3	48	25.26	1289	26.85		2.99
	4	38	20.00	1272	33.47	2.85	4	85	44.74	3200	37.65		3.30
	5	9	4.73	378	42.00	2.31	5	45	23.68	2024	44.98		1.61
普通 (30人)	1	3	10.00	20	6.67	1.25	1	3	10.00	22	7.33	1.70	-.064
	2	7	23.33	93	13.29	3.19	2	6	20.00	101	16.83	1.77	
	3	12	40.00	290	24.17	2.12	3	8	26.67	195	24.38	2.29	
	4	7	23.34	250	35.71	2.25	4	11	36.67	414	37.64	2.71	
	5	1	3.33	48	48.00	0.00	5	2	6.66	87	43.50	0.50	
嫌い (1人)	4	1	100.00	36	36.00	0.00	4	2	100.00	14	14.00	0.00	

*p<0.05

N=221

(2) ダンスの得意不得意とM. P. I.との相関

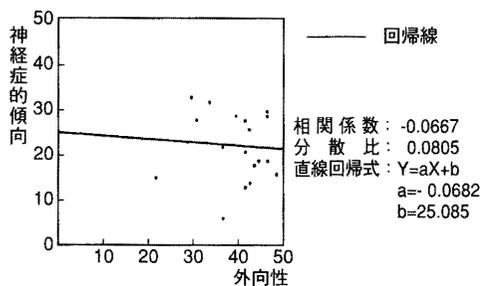


Fig. 7. Correlation at Skilful

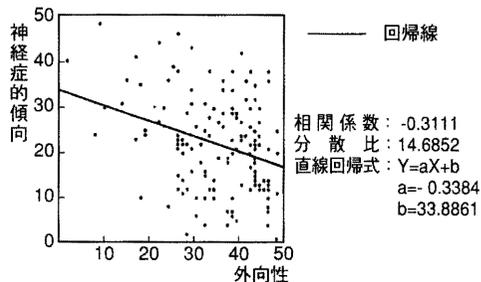


Fig. 8. Correlation at Common Technique

Table 6. Relationship between Skilful and Skilfulness of Dance and Characteristic by M. P. I.

	段階点	n	Neuroticism				段階点	n	Extroversion				相関係数 r
			%	得点	M	SD			%	得点	M	SD	
得意 (19人)	1	1	5.26	6	6.00	0.00	1	0	—	—	—	-.067	
	2	8	42.11	137	17.13	3.06	2	0	—	—	—		
	3	7	36.84	182	26.00	2.98	3	4	21.05	108	27.00		3.54
	4	3	15.79	95	31.67	1.25	4	10	52.63	392	39.20		2.96
	5	0	—	—	—	—	5	5	26.32	227	45.40		1.74
どちらでも ない (137人)	1	14	10.22	73	5.21	2.08	1	3	2.19	19	6.33	3.09	-.311*
	2	41	29.93	571	13.93	3.09	2	9	6.57	175	19.44	8.73	
	3	48	35.04	1169	24.35	2.62	3	36	26.28	998	27.72	3.70	
	4	25	18.25	833	33.32	3.99	4	53	38.68	1969	37.15	3.22	
	5	9	6.56	358	39.78	9.16	5	36	26.28	1612	44.78	1.67	
嫌い (62人)	1	5	8.06	35	7.00	1.67	1	1	1.61	5	5.00	0.00	-.061
	2	16	25.81	236	14.75	2.73	2	9	14.52	151	16.78	3.08	
	3	20	32.26	499	24.95	2.65	3	19	30.65	486	25.58	3.44	
	4	17	27.42	573	33.71	2.97	4	28	45.16	1061	37.89	3.07	
	5	4	6.45	163	40.75	1.92	5	5	8.06	225	45.00	0.89	

*p<0.05

N=218

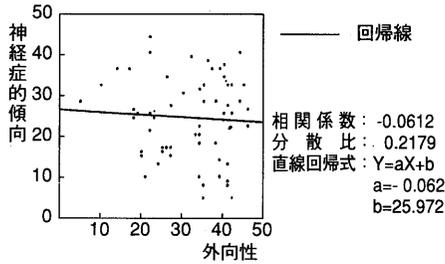


Fig. 9. Correlation at Weak points

Table 5 よりダンスが好きと回答した群に、負の相関が見られ、5%水準で有意差が認められた。N尺度の神経症的傾向に関しては普通、E尺度はやや外向的傾向である。Table 6 からどちらでもないと回答した群に負の相関が見られ、5%水準で有意差が認められた。N尺度に関しては普通でE尺度はやや外向的である。

嫌いと回答した群ではN尺度に関して普通、E尺度はやや外向的であった。

全体的に神経症的傾向は普通でやや外向的な性格特性を示す。

6. 好きなダンスの種類

Table 7. Kinds of Favorite Dance

順位	項目	N	%	順位	項目	N	%
1	エアロビクスダンス	218	92.0	7	レクリエーションダンス	30	12.7
2	ジャズダンス	166	70.0	8	日本舞踊	27	11.3
3	創作ダンス	81	34.2	9	民族舞踊	14	5.9
4	バレエ	58	24.5	10	その他	11	4.6
5	モダンダンス	43	18.1	11	社交ダンス	6	2.5
6	フォークダンス	36	15.2				

N=237 (複数回答)

上位にエアロビクス、ジャズダンスが群をぬいて挙げられている。これは社会体育の現場で、必ずと言ってよい程実施されている人気種目であることから当然の結果と言えよう。3位の創作ダンスでは学校体育の中で、指導要領の改訂と教師による研究熱心な指導の成果とも言えるのではなからうか。現場の苦勞が推察できよう。以下バレエ、モダンダンスとより専門的な種目を取りあげられている。又日本舞踊も7位に入り多様な傾向を示している。その他ではタップダンス、能楽、サルサ、メレンゲ、フラメンコ等の回答があった。

7. ダンスを受講した動機

上位に身体的要因として、運動不足解消、瘦身願望、美容の為等が挙げられ、一般的な体育種目に対する動機と類似した回答であった。ダンス特有の技術的要因としては、かっこよく踊りたい、色々なステップを覚えたい、リズム感を良くしたい等であった。精神的要因では踊るのが好き、興味がある等の回答が得られた。集団所属要因としては、友達をつくりたい、勧められて、友達が受講するからとなっていた。

Table 8. Motive to Attend at the Lecture Dance

順位	項目	N	%
1	楽しい	135	57.0
2	体力不足を感じた	82	34.6
3	体が堅い	64	27.0
4	充実感がある	56	23.6
5	運動を習慣化したい	44	18.6
6	ストレス解消になった	39	16.5
7	動きについていけない	34	14.3
8	もっと難しいステップを覚えたい	30	12.7
9	健康や運動に対する知識が持てた	21	8.9
10	友達が出来た	11	4.0
11	疲れる	8	3.3
12	その他	6	2.5
13	恥ずかしい	3	1.3
14	おもしろくない	2	0.8
15	体力がついた	2	0.8
16	痩せた	1	0.4
	無回答	13	5.5

N=237 (複数回答)

Table 9. Impression about the Dance Class Ended

順位	項目	N	%
1	運動不足解消	126	53.2
2	踊るのが好き	99	41.8
3	興味がある	81	34.2
4	痩せたい	66	27.8
5	ストレス解消	49	20.7
6	かっこよく踊りたい	46	19.4
6	リズム感を良くしたい	46	19.4
8	色々なステップを覚えたい	36	15.2
9	体を柔らかくしたい	33	13.9
10	健康保持のため	29	12.2
11	美容のため	27	11.4
12	体力増進のため	24	10.1
13	軽やかなコスチュームが良い	18	8.0
13	自分にあっている	14	5.9
14	友達を作りたい	11	4.6
15	友達が受講するから	9	3.7
17	勧められて	4	2.0
17	その他	4	2.0

N=237 (複数回答)

8. 履修後の印象について

Table 9. から授業の印象について回答を求めた結果、楽しい57%と半数を越え、受講動機の2位でもある「踊るのが好き41.8%」と関係し、自分の願望が授業中に満喫出来たのではないかと思われる。

次いで体力不足を感じた34.6%、体が堅い27.0%、動きについて行けない14.3%等は授業のレベルに対応出来なかった自己反省であり、警告になったとも言えるのではなからうか。

運動を習慣化したい18.6%、健康や運動に対する知識が持てた8.9%と少数の意見ではあるが、これはTable 1の「健康に留意しており自信がある42.5%」と半数近い回答が得られたことから推察できるように、今回このような結果につながったのであろう。

結 論

67.9%の学生が過去に運動部で活動経験が有り、そのうち38.0%の者が運動が好きと回答していることから、全体に運動に対する関心が高いと言える。唯、健康に対して66.2%の者が普段の生活に留意しているものの、健康に対する自信は56.5%で高いとは一概に言えず、体力的にあまり自信が無いという傾向である。そのため、何らかの運動を実施せねばという意識から特に興味を持つダンスを選択し、健康管理に役立てようとしている。この興味を持つ事と背景にある技術レベルに関して学生の性格構造を分析すると、次のような事が言えるのではなからうか。ダンスの好きな学生は精神的にあまりくよくよせず社会的・開放的で動作や感情の表現にためらいが無い。その上陽気でおおらかな性格で衝動的な特徴を示す傾向といえる。そのため、積極的に内面の自己表現が出来るダンスを選択したと言える。更に、得意不得意に関してもあまり問題にせず、エネルギー発散の場として精神的・肉体的に満足感を得ようとしたとも言える。

しかしながら結果として、週一回90分の授業では体力向上という目的達成度は低く、身体的な満足度より「楽しい」「充実感がある」「ストレス解消になった」等の精神的な満足度を得たようである。更に授業を通じて体力不足や柔軟性の欠落など、自己を反省し、健康への関心を高める良き機会であったと言える。又、平素より健康に留意し、体力の有る者はレベルが初心者向きという画一的な内容であった為、12%の学生は不満を訴え高度な授業展開を望んでいた。ダンス選択に関しては好きだからこそ受講を希望し、運動不足解消を兼ねて踊りたいという欲求を満足させるという目的をもって受講していたと言える。以上の事から今後のダンス指導指針として、学生の技術レベルと目的意識を考慮し、カリキュラムのコース分けをするとともに、運動量の過不足、ステップの難易度、指導助言等において工夫する必要があるであろう。

参考文献

- 1) 伊達萬里子, 日本体育学会大会号, 40, p.578(1989)
- 2) 伊達萬里子, 武庫川女子大学紀要, 38, p.141~148(1990)
- 3) 伊達萬里子, 武庫川女子大学紀要, 41, p.121~128(1993)
- 4) 伊達萬里子, 日本体育学会大会号, 44, p.150(1993)
- 5) 宇土正彦, 女性の健康と運動, 現代出版社, p.165~166(1994)
- 6) H・J・アイゼンク, モーズレイ性格検査, 誠信書房, p.1~24(1984)
- 7) M. P. I. 研究会編, 新性格検査法, モーズレイ性格検査, 誠信書房, p.1~ended(1969)